

各関係機関の長 殿

福岡県病虫害防除所長

平成17年度病虫害発生予報第2号について

このことについて、以下のとおり送付します。

平成17年度病虫害発生予報第2号（5月）

【普通作物】

作物名	病虫害名	発生現況 (平成比)	発生予想 (平成比)
水稲	ツマグロヨコバイ 萎縮病 ヒメトビウンカ 縞葉枯病	並 - 並 -	並 並 並 やや多い

【普通作物 - 水稲】

1 ツマグロヨコバイ

(1) 予報の内容

発生量：平成・前年並

(2) 予報の根拠

4月5半旬の片振り20回すくい取り調査の結果、ツマグロヨコバイの越冬量は畦畔で1.1頭（平成：0.3頭、前年0.4頭）、休閑田で0.5頭（平成：2.0頭、前年：3.0頭）、小麦田で0頭（平成：1.0頭、前年0.2頭）であった。

(3) 防除上注意すべき事項

萎縮病の常習発生地を除き、防除の必要はない。

2 萎縮病

(1) 予報の内容

発生量：平成・前年並

(2) 予報の根拠

ア ツマグロヨコバイのイネ萎縮ウイルス保毒虫率は0%（平成：0.3%、前年：0.3%）であった（第1表参照）。

イ 4月5半旬調査の結果、ツマグロヨコバイの越冬量は平成並であった。

第1表 ツマグロヨコバイのイネ萎縮ウイルス保毒虫率（エライザ）

採集場所	検定虫数 (頭)	保毒虫数 (頭)	保毒虫率(%)		
			本年	前年	前々年
宗像市河東	188	0	0	0	0
久留米市太郎原	188	0	0	0	0
朝倉町菱野	188	0	0	1.1	-
田主丸町益生田	188	0	0	0	0
山川町北関	118	0	0	0.5	0
黒木町木屋	132	0	0	0	0
筑後市馬間田	115	0	0	0	0
上陽町上横山	105	0	0	0	-
岡垣町黒山	188	0	0	1.6	0
行橋市長井	188	0	0	0	0
各地点の平均			0	0.3	0
平 年					0.3

「-」は実施せず

### 3 ヒメトビウンカ

#### (1) 予報の内容

発生量：平年・前年並

#### (2) 予報の根拠

4月5半旬の片振り20回すくい取り調査の結果、ヒメトビウンカの越冬量は畦畔で0.8頭（平年：0.1頭、前年：0.1頭）、休閑田で0.2頭（平年：0.6頭、前年0.5頭）、小麦田で0.2頭（平年：1.8頭、前年：0.5頭）であった。

### 4 縞葉枯病

#### (1) 予報の内容

発生量：平年・前年よりやや多い

#### (2) 予報の根拠

ア ヒメトビウンカのイネ縞葉枯ウイルス保毒虫率は6.0%（平年：1.3%、前年：4.0%）であった（第2、3表参照）。

イ 4月5半旬調査の結果、ヒメトビウンカの越冬量は平年並であった。

#### (3) 防除上注意すべき事項

昨年縞葉枯病が後期に発生した大木町、柳川市では保毒虫率が高くなっているため、感染防止対策として箱施薬剤を施用する。

第2表 ヒメトビウンカのイネ縞葉枯ウイルス保毒虫率（エライザ）

採集場所	検定虫数 (頭)	保毒虫数 (頭)	保毒虫率(%)		
			本年	前年	前々年
宗像市河東	188	5	2.7	1.2	5.0
久留米市太郎原	188	6	3.2	5.5	5.4
大木町上八院	158	12	7.6	-	-
大木町上木佐木	105	16	15.2	-	-
朝倉町菱野	188	13	6.9	3.2	-
田主丸町益生田	188	7	3.7	4.8	2.6
山川町北関	59	1	1.7	5.6	9.0
柳川市三橋町高畑	158	23	14.6	-	-
黒木町木屋	97	6	6.2	8.1	8.0
筑後市馬間田	46	3	6.5	1.9	-
上陽町上横山	107	5	4.7	5.6	-
行橋市長井	76	2	2.6	0	2.1
岡垣町黒山	54	1	1.9	-	0.9
各地点の平均			6.0	4.0	4.6

「-」は実施せず

第3表 ヒメトビウンカのイネ縞葉枯ウイルス保毒虫率の年次変動

年次	検定 地点数	保毒虫確認 地点数	検定総虫数 (頭)	保毒虫率 (%)
1995	11	4	2196	0.3
1996	9	2	1750	0.3
1997	10	1	1582	0.1
1998	9	5	1568	0.6
1999	7	1	777	0.4
2000	8	3	873	0.5
2001	8	3	769	0.7
2002	12	6	1087	1.2
2003	7	7	1178	4.6
2004	9	8	860	4.0
本年	13	13	1532	6.0
平年				1.3

2001年まではラテックス凝集反応法、それ以降はエライザによる検定

【果 樹】

作物名	病虫害名	発生現況 ( 平年比 )	発生予想 ( 平年比 )
カンキツ	そうか病 ミカンハダニ アブラムシ類	少ない やや少ない 並	やや少ない やや少ない 並
ナシ	黒星病 アブラムシ類	やや少ない 並	並 並
ブドウ	黒とう病	少ない	やや少ない
カキ	炭疽病 うどんこ病 フジコナカイガラムシ	- - 並	やや多い 並 並
果樹共通	カメムシ類	少ない	少ない

【果 樹】

1 カンキツのミカンハダニ

( 1 ) 予報の内容

発生量：平年・前年よりやや少ない

( 2 ) 予報の根拠

ア 4月5半旬調査の結果、寄生葉率は4.4%（平年：7.1%、前年：18.3%）、発生ほ場率は47.1%（平年：33.3%、前年：43.8%）であった。

イ 気象予報では、5月の平均気温及び降水量は平年並と予想されている。

( 3 ) 防除上注意すべき事項

ア 薬剤防除に当たっては、薬液が葉裏に十分かかるよう丁寧に散布する。

イ 薬剤感受性低下を避けるため、同一系統薬剤の連続散布を控え、異なる系統の薬剤をローテーション散布する。

2 ナシ黒星病

( 1 ) 予報の内容

発生量：平年・前年並

( 2 ) 予報の根拠

ア 4月5半旬調査の結果、発病葉は見られない（平年：0.1%、前年：0%）。

イ 気象予報では、5月の平均気温及び降水量は平年並と予想されている（以下の病虫害についても同じ）。

( 3 ) 防除上注意すべき事項

ア 芽基部に病斑が見られるほ場では多発する恐れがあるので、発生状況に注意し発病芽はできる限り取り除き処分する。

イ 薬剤感受性低下を避けるため、同一系統薬剤の連続散布を控え、異なる系統の薬剤をローテーション散布する。（以下の病虫害については同じ）

### 3 ナシのアブラムシ類

#### (1) 予報の内容

発生量：平年並、前年よりやや多い

#### (2) 予報の根拠

4月5半旬調査の結果、寄生新梢率は1.7%（平年：1.8%、前年：0.9%）、発生ほ場率は57.1%（平年：42.3%、前年：40.0%）であった。

### 4 ブドウ黒とう病

#### (1) 予報の内容

発生量：平年・前年よりやや少ない

#### (2) 予報の根拠

ア 4月5半旬調査の結果、発病葉は見られない（平年：1.0%、前年：0.2%）。

イ 気象予報では、5月の平均気温及び降水量は平年並と予想されている。

#### (3) 防除上注意すべき事項

罹病葉、罹病新梢は発生源になるので、できる限り取り除き処分する。

### 5 カキ炭疽病

#### (1) 予報の内容

発生量：平年・前年よりやや多い

#### (2) 予報の根拠

ア 前年の10月2半旬調査の結果、発病枝率は1.8%（平年：0.9%、前年：1.1%）であった。

イ 気象予報では、5月の平均気温及び降水量は平年並と予想されている（以下の病害虫についても同じ）。

#### (3) 防除上注意すべき事項

ア 罹病枝は発生源になるので、取り除き処分する。

イ 発病枝の多い園では、降雨により感染が拡大するので薬剤散布を徹底する。

### 6 カキのフジコナカイガラムシ

#### (1) 予報の内容

発生量：平年・前年並

#### (2) 予報の根拠

ア 4月5半旬調査の結果、寄生枝率は0.9%（平年：3.0%、前年：1.7%）、発生ほ場率は40.0%（平年：48.0%、前年：53.8%）であった。

#### (3) 防除上注意すべき事項

ア 現在越冬幼虫が新梢へ移動中なので、発生の多いほ場は開花前に防除を行う。

イ 本虫は、薬剤がかかり難い場所に多く寄生するので、散布むらのないよう丁寧に防除する。

ウ 開花前の防除はミツバチに影響の少ない薬剤を散布する。

7 果樹共通のカメムシ類

(1) 予報の内容

発生量：平年・前年より少ない

(2) 予報の根拠

ア 越冬量は平均0.1頭(平年：1.6頭、前年：4.7頭)であった。

イ 4月5半旬までの予察灯の誘殺虫数は次のとおりである。

(調査地点：うきは市小塩)

チャバネアオカメムシ 0頭(平年：13頭、前年：73頭)

ツヤアオカメムシ 0頭(平年：14頭、前年：116頭)

(調査地点：黒木町本分)

チャバネアオカメムシ 4頭(平年：9頭、前年：45頭)

ツヤアオカメムシ 0頭(平年：5頭、前年：10頭)

ウ 4月5半旬までのフェロモントラップの誘殺虫数は次のとおりである。

(調査地点：筑紫野市吉木)

チャバネアオカメムシ 15頭(前8か年平均：95頭、前年：55頭)

ツヤアオカメムシ 0頭(前8か年平均：2頭、前年：5頭)

(3) 防除上注意すべき事項

発生が少ないので、防除の必要はない。

【茶】

作物名	病虫害名	発生現況 ( 平年比 )	発生予想 ( 平年比 )
茶	カンザワハダニ チャノミドリヒメヨコバイ チャノキイロアザミウマ	やや多い 並 やや多い	多い 並 やや多い

【茶】

1 カンザワハダニ

( 1 ) 予報の内容

発生量：平年・前年より多い

( 2 ) 予報の根拠

ア 4月5半旬調査の結果、寄生葉率は6.2%（平年：3.5%、前年：5.9%）、50葉当たり寄生虫数は平均30.8頭（平年：8.4頭、前年：10.4頭）であった。また、発生ほ場率は76.9%と高い。

イ 気象予報では、5月の平均気温、降水量共に平年並と予想されている。

( 3 ) 防除上注意すべき事項

ア 発生状況をよく観察し、一番茶摘採後に早めの防除を行う。

イ 薬剤感受性低下を避けるため、同一系統薬剤の連続散布を控え、異なる系統の薬剤をローテーション散布する。

2 チャノキイロアザミウマ

( 1 ) 予報の内容

発生量：平年・前年よりやや多い

( 2 ) 予報の根拠

ア 4月5半旬調査の結果、たたき落としによる虫数は、平均0.8頭（平年：0.3頭、前年：0.2頭）の発生であった。

イ 気象予報では、5月の平均気温、降水量共に平年並と予想されている。

( 3 ) 防除上注意すべき事項

発生状況をよく観察し、たたき落とし（A4版白紙上）で10頭以上発生している場合は一番茶摘採後に防除を行う。

【野 菜】

作物名	病虫害名	発生現況 ( 平年比 )	発生予想 ( 平年比 )
アスパラガス	斑点病 ハダニ類 アブラムシ類 アザミウマ類 鱗翅目類	並 並 並 並 並	並 並 並 並 並



## 5月の気象予報（1か月）

（予報期間4月23日～5月22日）

2005年4月22日  
福岡管区气象台発表

### 【概要】

向こう1か月の平均気温は平年並、降水量は平年並、日照時間は平年並の可能性が大きいでしょう。

九州北部地方では、天気は数日の周期で変わり、平年と同様に晴れる日が多いでしょう。

### 【要素別確率】

（単位％）

要素	低い （少ない）	平年並	高い （多い）
気温	20	50	30
降水量	30	40	30
日照時間	30	40	30

- < 1週目の予報 > 4月23日～4月30日  
この期間の平均気温は、平年並の可能性が大きいでしょう。
- < 2週目の予報 > 5月1日～5月8日  
この期間の平均気温は、平年並の可能性が大きいでしょう。
- < 3～4週目の予報 > 5月9日～5月22日  
この期間の平均気温は、平年並の可能性が大きいでしょう。

### 参考資料

福岡における平年値

向こう1か月の平均気温、降水量、日照時間と1週目、2週目、3～4週目の平均気温

向こう1か月			平均気温（ ）		
平均気温（ ）	降水量(mm)	日照時間(h)	1週目	2週目	3-4週目
18.1	142.3	187.3	16.6	17.6	18.8

病虫害防除所では、病虫害の発生状況と防除について、ホームページでお知らせしています。アドレス及び番号は下記の通りです。

ホームページアドレス  
電子メールアドレス

<http://www.jpnpn.ne.jp/fukuoka>  
[kfok0301@sp.jpnpn.ne.jp](mailto:kfok0301@sp.jpnpn.ne.jp)